山沢下遺跡

—セイコーエプソン株式会社諏訪南事業所

第三駐車場建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

2002

長野県富士見町教育委員会

例　　言

1　本書はセイコーエプソン株式会社諏訪南事業所第三駐車場建設に伴い、セイコーエプソン株式会社の委託をうけて富士見町教育委員会が実施した山沢下遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は平成13年(2001) 6 月25日から 7 月 2 日にかけて行われ、遺物及び図面の整理は平成13年12月 1 日から 1 月31日にかけて行われた。

3　発掘調査は樋口誠司・小松隆史が担当し、本書の執筆および実測図の製図は小松隆史が行った。また遺物の整理作業には駿河台大学生平出恵美里さんの協力を得た。

4　本報告にかかわる出土品、諸記録は井戸尻考古館に保管されている。

発掘調査・整理作業参加者名簿

発掘担当	樋口　誠司	小松　隆史			
発掘作業員	小平　辰夫	小林ノリ子	小林　道子	五味　紘一	五味　悦子
	野沢レイ子	平出　慶喜	平出　虎一	武藤きのゑ	武藤くに子
整理作業員	小口　明子	小池　敦子			

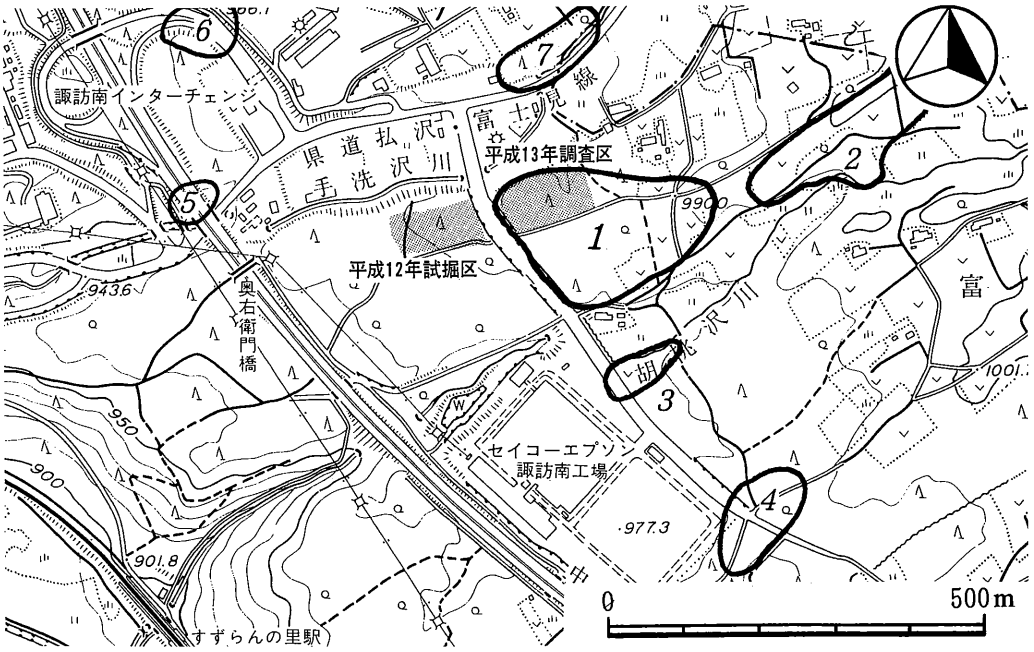
1　調査の経過と概要

山沢下遺跡は、原村との境に近い富士見町富原の、手洗沢川と胡桃沢川に挟まれた広く緩やかな尾根上に位置する（第１図）。縄文時代と平安時代の遺跡として知られているが、遺跡の西半は山林のためにその広がりを確定できずにいた。

この一部をセイコーエプソン株式会社諏訪南事業所の第三駐車場として造成することとなり、富士見町教育委員会に埋蔵文化財の有無について照会があった。トレンチによる試掘調査を行ったところ埋蔵文化財が確認できたため、協議ののち、部分的に調査区を拡張して遺構ごとに調査することとなった。

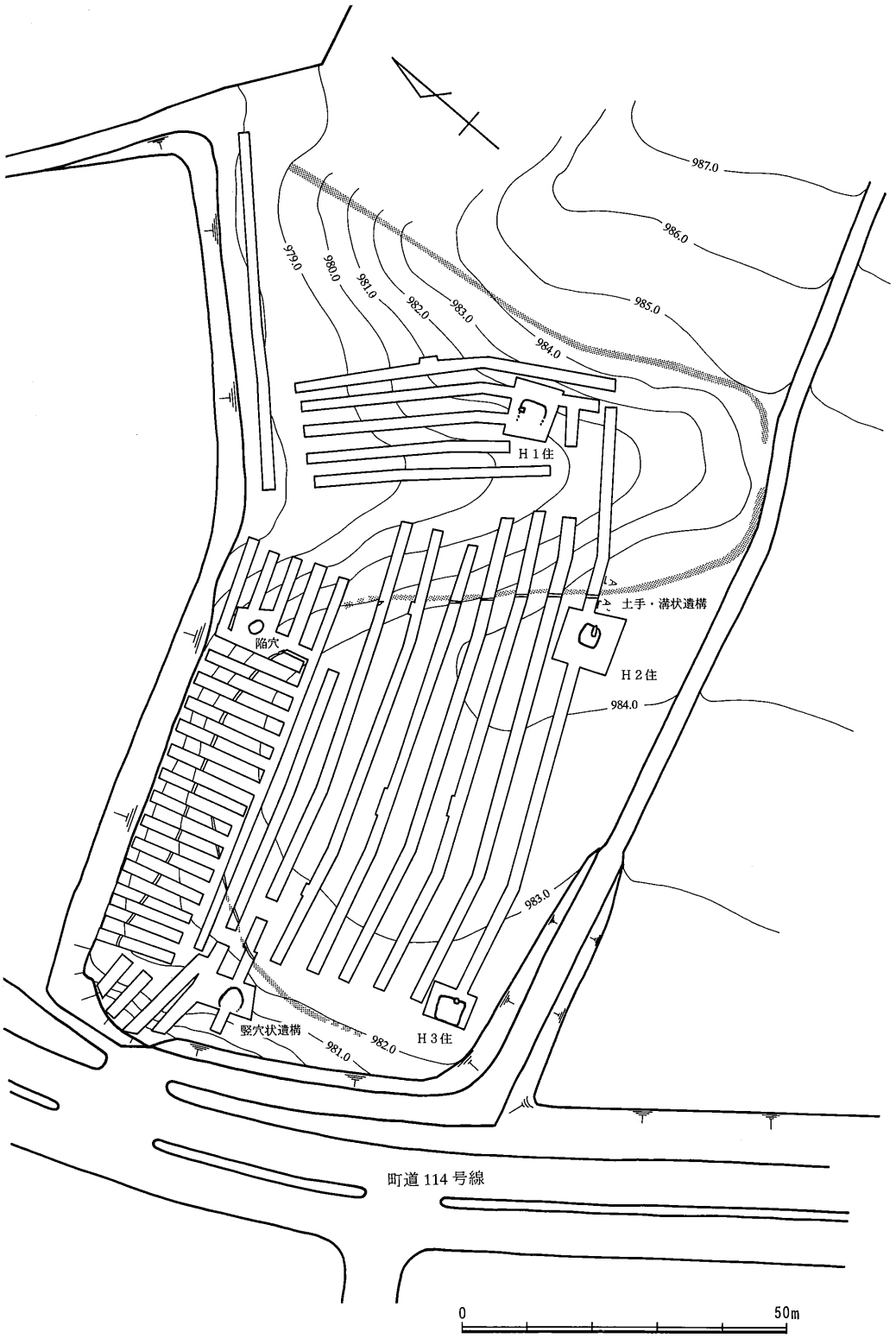
2　遺構と遺物

調査の結果、平安時代の住居址３軒、時代不詳の竪穴状遺構１基と陥し穴１基が発見された。さらに調査区内の沢を囲むように、低い土塁状の土手とこれに伴う溝状の遺構が確認された（第２図）。

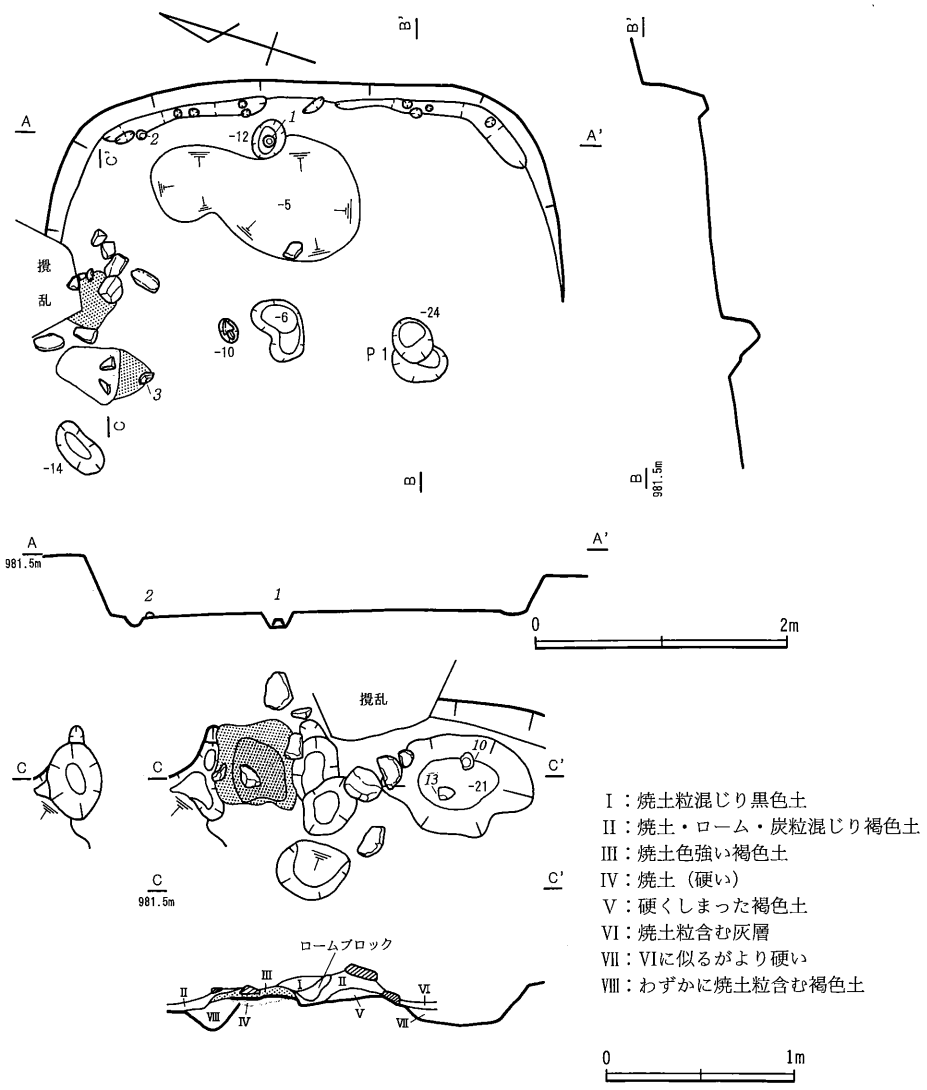


１：山沢下　２：山沢上　３：大久保　４：万年清水
５：手洗沢（煙滅）　６：御射山西（煙滅）　７：御射山中

第１図　山沢下遺跡および周辺の遺跡と地形（1/10,000）



第２図　調査区全体図 (1/1,000)

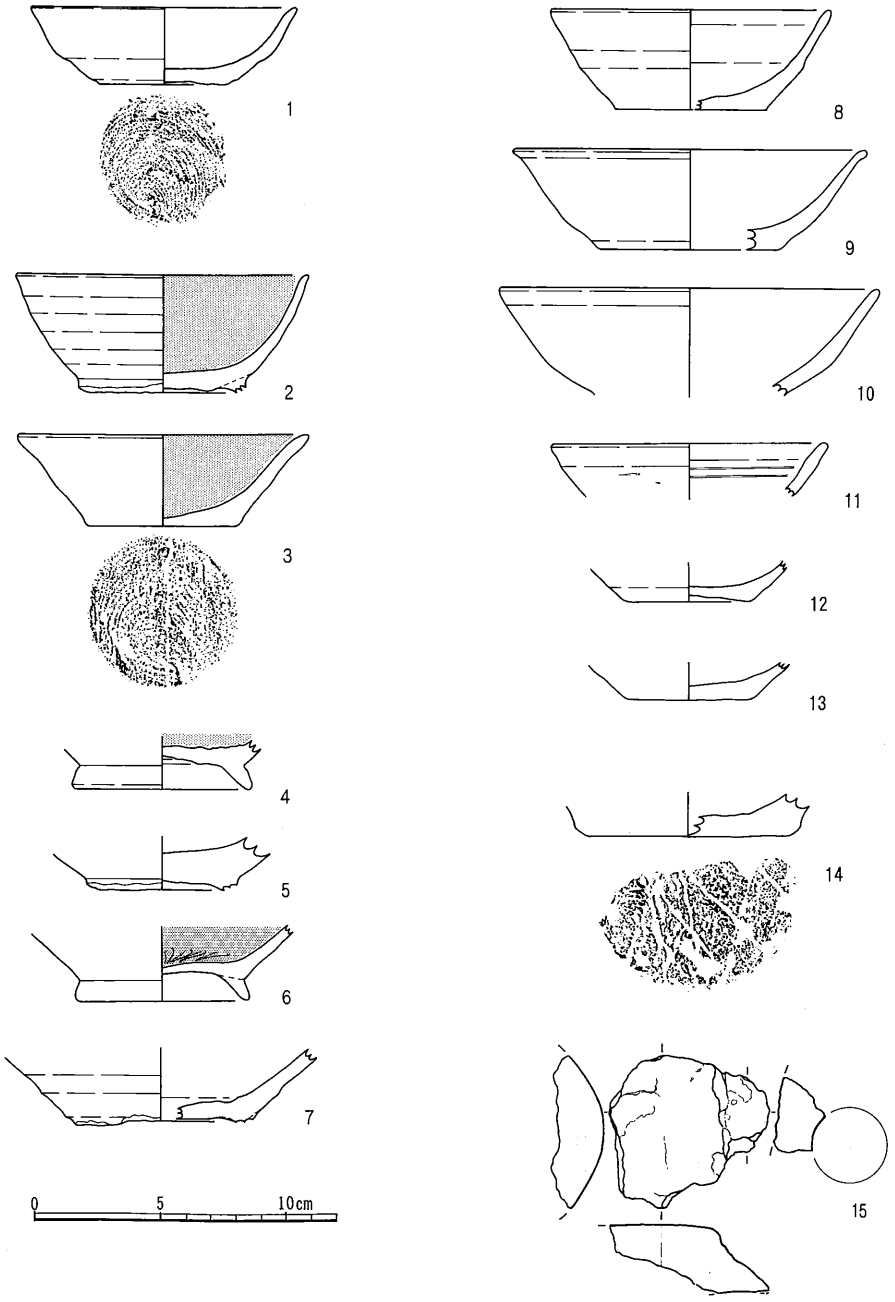


第３図　Ｈ１号住居址（1/60 竈図は1/40）

Ｈ１号住居址

調査区のもっとも東、沢の西向き斜面に発見されたが、沢のため住居の西半は残っていなかった。山側の東壁際には周溝がめぐり、こちら側の床は硬くしまっている。柱穴と思われるのはＰ１のみであった。北壁ほぼ中央に竈がある。袖石が抜かれていたが、焼土の様子から一度袖石を据え直していることがわかった（第３図）。

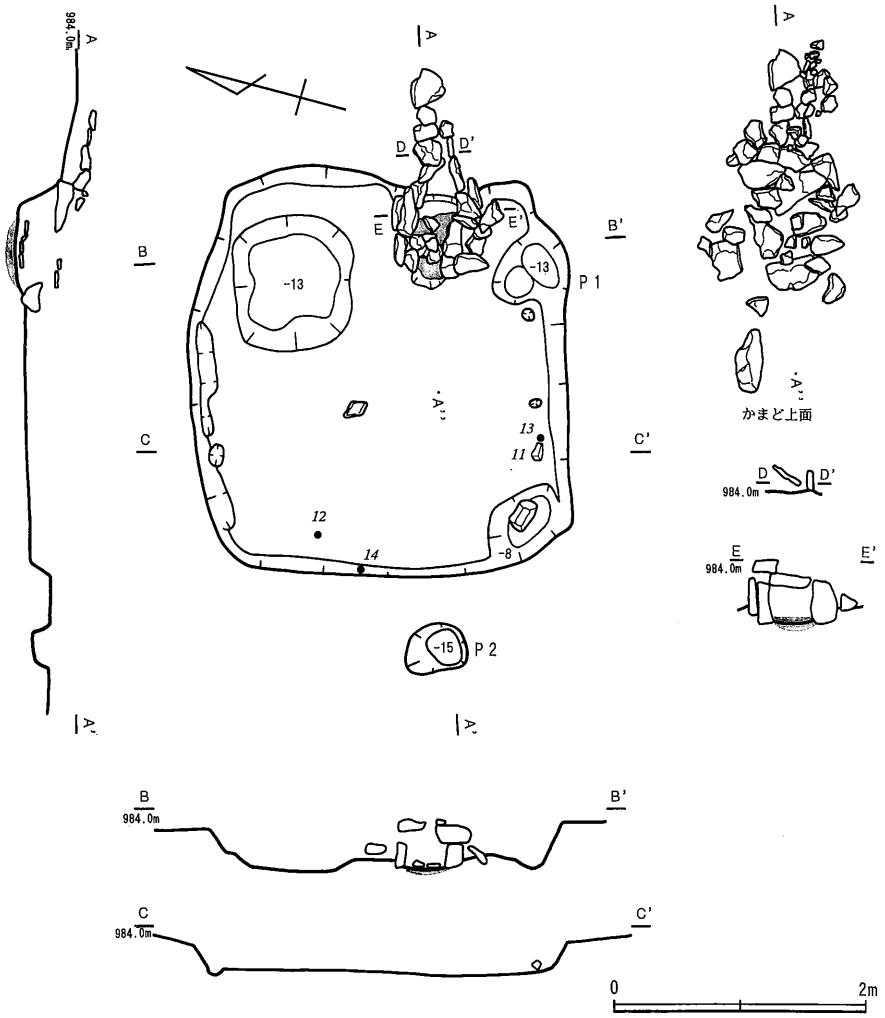
この住居址からは、完形の１をふくめ土師器埦が多く発見された（第４図）。これに対し土師器甕は底部破片14が１点発見されたのみである。埦には回転糸切り底のもの（１・３・８・９・12・13）と貼り付け高台のもの（２・４・５・６・７）があり、２・３・４・６は内黒で



第４図　Ｈ１号住居址出土遺物 (1/3)

ある。３は回転糸切り後、篦で一方向に粗く削られている。６には底部見込みに放射状の暗文がみられる。14は土師器甕の底部で葉脈圧痕がある。

このほかに鉧(けら)や鉄滓(てつし)、鞴(ふいご)の羽口(15)、炉壁の一部と見られる焼けた粘土塊が発見されているが（写真図版４）、焼土や炉体などの鍛冶遺構、鍛造剝片などは確認できなかった。

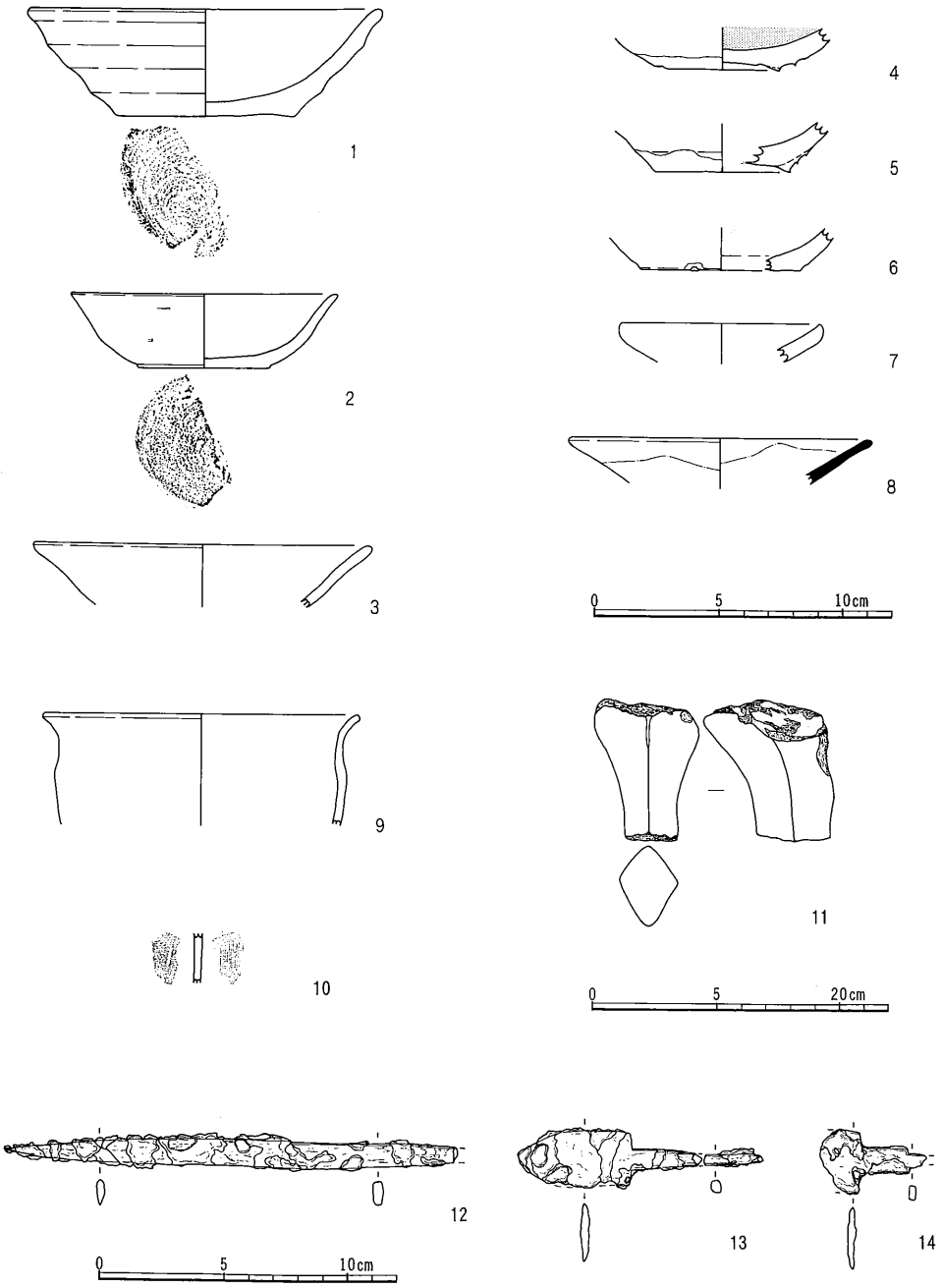


第5図　Ｈ２号住居址 (1/60)

Ｈ２号住居址

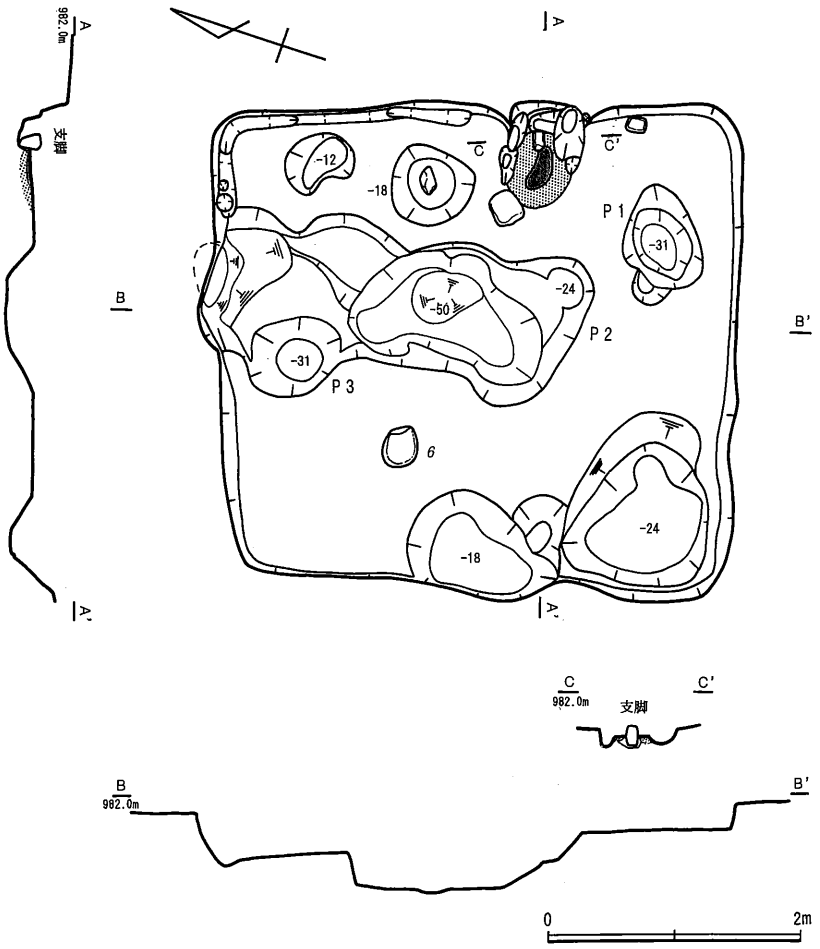
沢に落ちる尾根の肩に近い平坦部で発見された。一辺３ｍほどの小型の住居址だが、立派な石組みの竈が残されていた。北壁際に周溝があり、床は全体的にあまり硬くない。柱穴と思われるものは竈脇のＰ１と住居の西外にあるＰ２だが、いずれも深くはない（第５図)。

遺物には土師器・灰釉陶器・砥石・鉄製品がある（第６図)。土師器埦には回転糸切り底のものと、貼り付け高台のものがあり、４は内黒である。２は灯明皿に転用されている。７は小型の皿、８は灰釉陶器の埦であろう。９・10は土師器甕。粒の大きさが一定でない砂を含む無文の９と、精製された胎土で刷毛目状調整が施された10、接合できず肌荒れの著しいものの計３個体分の破片が見つかった。10の個体もほとんど接合できず、器形は不明。11の砥石は白色の片麻岩で、よく使い込まれている。四面が断面菱形になるように減っていて、上端部にも若干



第６図　Ｈ２号住居址出土遺物
(1～8・12～14：1/3、9～11：1/6)

擦られた痕跡がある。住居址南壁際の床面に据えられていた。鎌などを研ぐ手持ちの砥石ではないことから、刀剣や、やりがんななどの工具を研いだものと推測される。12は刀子で床よりやや高いところからの発見。柄部端をわずかに欠く。先端より三分の一ほどのところで折れて

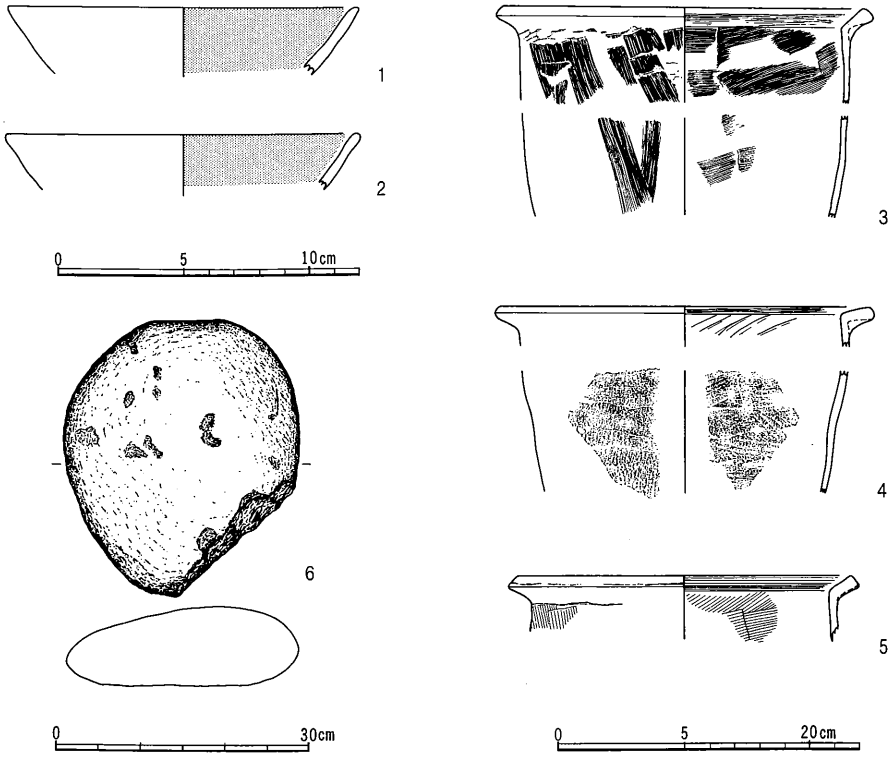


第7図　Ｈ３号住居址（1/60）

いるが、土中で重なって錆び付いている。13・14は鉄鏃。13は砥石11のすぐ脇から発見された。14は先端と茎部を欠失するが、平位で茎部を住居のローム壁（床面より12cm高）に刺し込まれた状態で出土した。何らかの意図を持って壁に刺していたものであろう。

Ｈ３号住居址

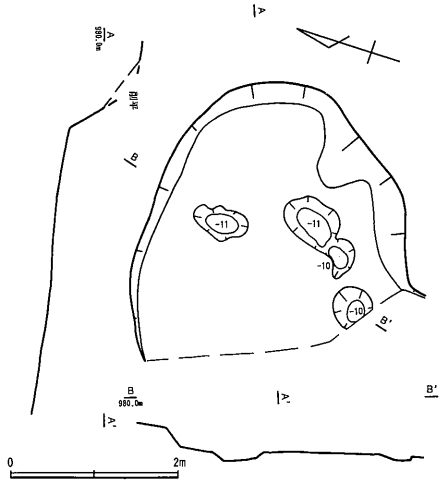
調査区南隅で、試掘調査開始早々に検出された住居址。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が柱穴と考えられる。このＰ１・Ｐ２・Ｐ３を結んだラインより北東、竈側の床は硬く、南西側は比較的軟らかい。特に西側コーナー付近の床はまったくしまりがなく軟らかい。竈から北東側壁際に周溝がめぐる。竈は袖石を抜かれていたが、支脚が残されていた。また支脚の真後ろにも石の抜き取り痕がある（第７図）。



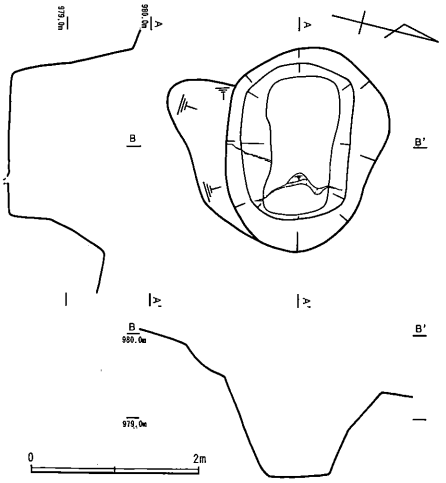
第８図　Ｈ３号住居址出土遺物
(1・2：1/3、3～5：1/6、6：1/9)

遺物は土師器の埦と甕、作業台石が出土した（第８図)。１・２はいずれも内黒の土師器埦。口縁付近の破片であるため底部の形はわからない。３・４・５は土師器の甕で、３は刷毛目状調整の目が細かく、４・５は粗い。いずれも住居内と竈北西の灰溜穴内との接合資料である。６は輝石角閃石安山岩の転石で、表面・裏面ともに目立った打痕や擦痕はみられないが、床面に据えられていたことなどから作業台石と考えた。

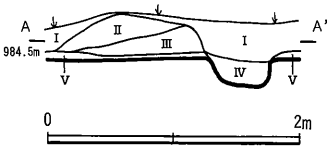
本住居址の遺物のあり方はＨ１号住居址と対照的で、甕の破片が圧倒的に多く、埦は１・２の２片と同一個体とみられる２片の計４片のみであった。



第9図　竪穴状遺構 (1/90)



第10図　陥　し　穴 (1/90)



Ⅰ：表　土
Ⅱ：ボソボソのローム
Ⅲ：ロームブロック混じり黒色土
Ⅳ：暗褐色土
Ⅴ：黒色土

第11図　土手・溝状遺構 (1/60)

竪穴状遺構

調査区西隅、西向き斜面に掘り込まれていた(第9図)。炭・ハードローム粒混じりの褐色土で埋まっており、当初は縄文時代の住居址とみて調査を行ったが、輪郭がはっきりしないこと、炉がないこと、床も緩く傾斜しており平らでないことなどから、住居ではないと判断した。浅い穴が4つ掘られているが、柱穴とは思われない。遺物はまったく出土せず帰属時期は不明。

陥　し　穴

平坦部から急激に沢へ落ちる尾根の肩部、北向き斜面で検出された(第10図)。調査時には穴が口を開けたが、これは埋没後に起こった地滑り、もしくは地震によって生じたクラックであると判明した。壁のロームの崩落状況と黒色土の落ち込み具合、底付近にみられたしまりのないロームと黒色土が交互に堆積する状況などから、自然に埋まったものと考えたい。遺物はまったく出土せず帰属時期は不明だが、堆土の状況から比較的新しいもののように思われる。

土手・溝状遺構

トレンチ内に、黒色の浅い溝状の落ち込みが連続して発見された(第11図)。地表面をよく観察するとこの溝と並んでわずかな盛り上がりが土塁のように沢を取り巻いていることがわかった。断面の観察では掘り込んだロームを沢側に盛り上げており、特に突き固めた様子はない。

3　調査の成果と課題

平　安　時　代

平安時代の集落の一部を確認し、３軒の住居址を調査することができた。ある程度の距離をおいて住居址が点在するのは、八ヶ岳西南麓における平安時代集落の典型である。Ｈ２号住居址からは、構造を知ることが出来る石組みの竈が発見された。またＨ２号住居址出土の鉄製品や砥石をはじめ、各住居址に残されていた甕や埦など、当時の生活を知る上で貴重な資料を得ることができた。土師器埦や甕の特徴から、各住居址の時期は11世紀中頃に位置づけられよう。さらにＨ１号住居址からは鉄滓や鞴の羽口、炉壁の一部が発見され、今回の調査では明らかにされなかったものの、当時の村の中で小鍛冶が行われていた可能性を示している。羽口は当町初の発見となった。

近　世・近　代

土手・溝状遺構は観察所見から比較的新しいものと推測される。金沢村（現在の茅野市金沢）には「猪垣（ししがき）」が知られており、斜面に溝を掘って下手側にその土を盛ることなどの諸特徴がよく似ることと、この尾根の北側、現在の県道払沢・富士見線の通る手洗沢川の沢には、多くの小規模水田が開かれていたと伝えられていることから、この遺構は水田に鹿や猪が下りないための猪垣、鹿土手（ししどて）のようなものであったと考えられよう*。地主の小林定博氏によれば、氏が先代よりこの地を引き継いだ時にはすでにあったということである。また時期不明の陥し穴がこの遺構に関連する可能性もある。

その他の時代

時期不明の竪穴状遺構は、その堆土の様子から縄文時代にさかのぼる可能性がある。山沢下遺跡の縄文集落を考える手がかりとなるかもしれない。山沢下遺跡は縄文時代と平安時代の遺跡だと考えられてきたが、今回の発掘調査では縄文時代の遺物は発見できなかった。

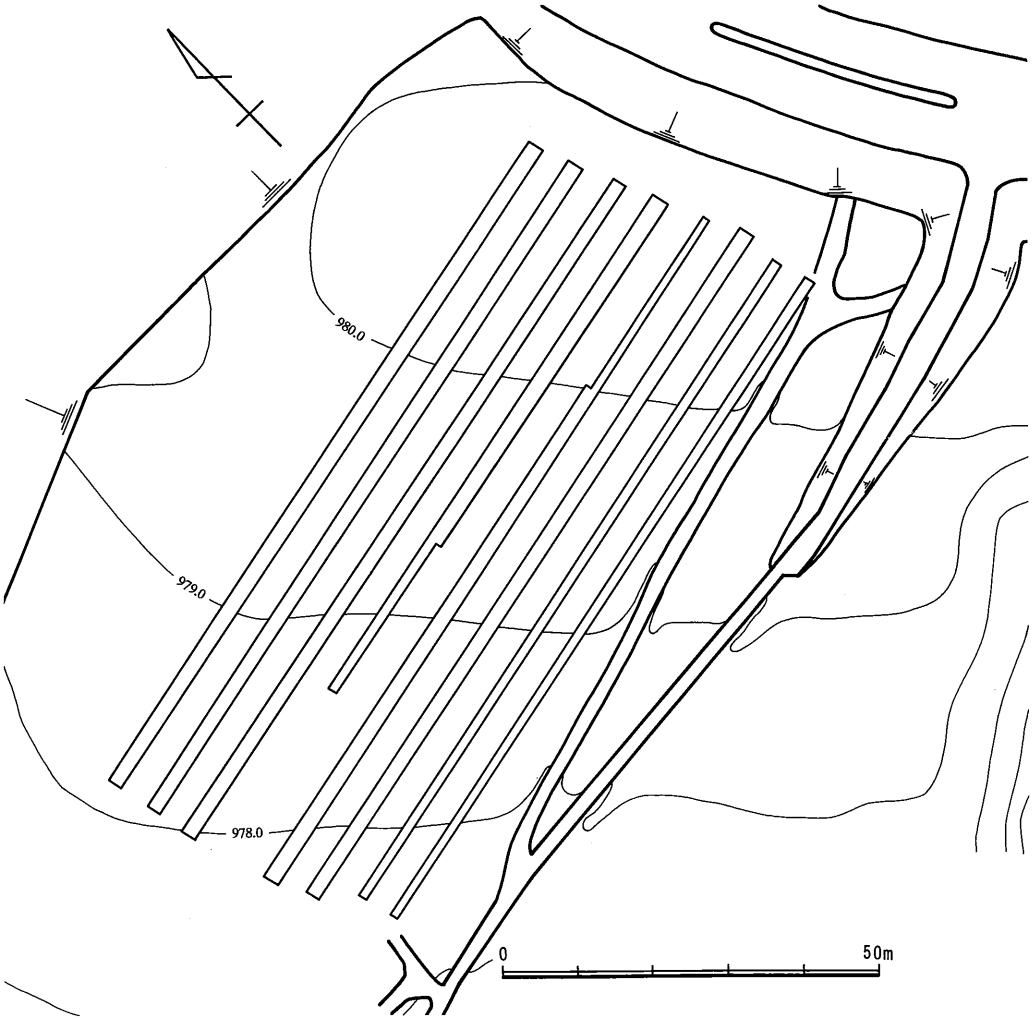
山沢下遺跡の位置する尾根は、平成13年度調査区での観察と町道114号線（通称テクノ街道）開道以前の地図によれば、現在町道114号線が通っているところが沢になっていたことがわかっている。平成12年度の試掘調査と平成13年度の発掘調査の結果から、尾根の北側ではこの沢までで平安時代の集落が収束することが判明したが、南側（セイコーエプソン株式会社諏訪南事業所より）は依然山林であり、その様相は不明である。南西向きの斜面にはさらに住居址が点在

する可能性もあり、山沢下遺跡の広がりを知るうえで、今後注意をする必要がある。

＊　文献：「猪垣」『諏訪史蹟要項』一．金沢村篇 1950 諏訪史談会

4　平成12年度（2000年度）試掘調査報告

セイコーエプソン株式会社の駐車場建設に先立ち、平成12年４月26日より28日まで試掘調査を行った。場所は平成13年度調査区の西側、同じ尾根続きで町道114号線を挟んで隣接している。トレンチによる試掘調査の結果、埋蔵文化財は確認されなかった（第12図）。



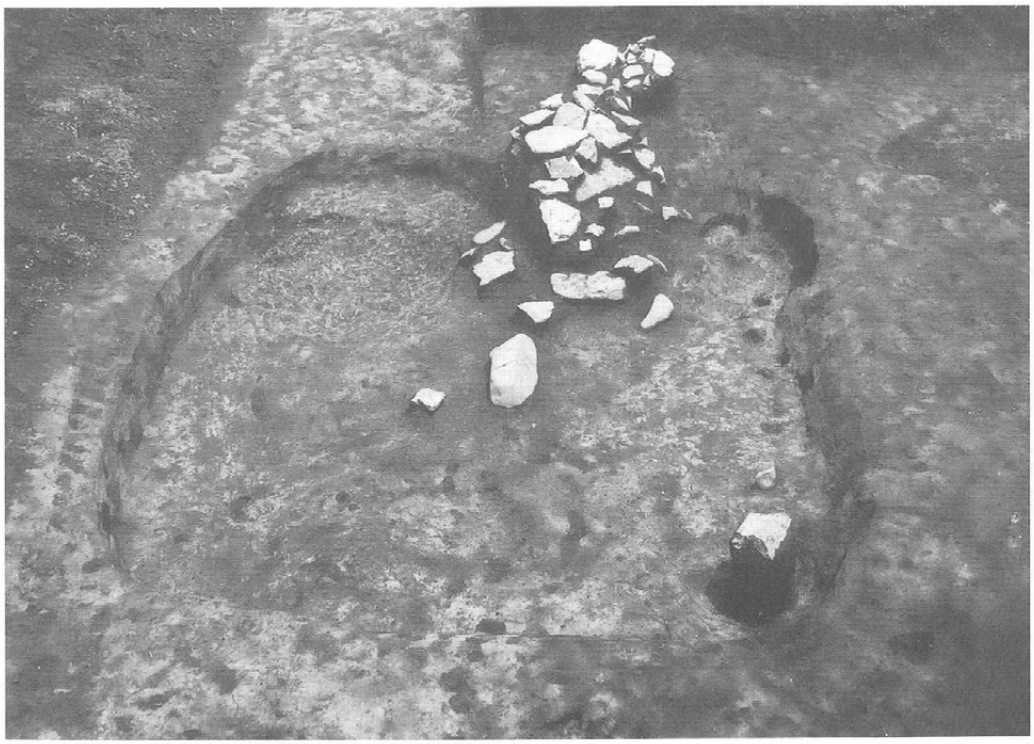
第12図　平成12年度試掘調査区全体図（1/1,000）

山沢下遺跡　平成13年度調査区全景（北より）

遺構検出状況

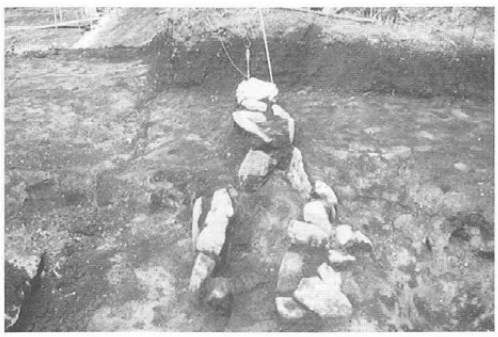
写真図版　2

Ｈ１号住居址（西より）



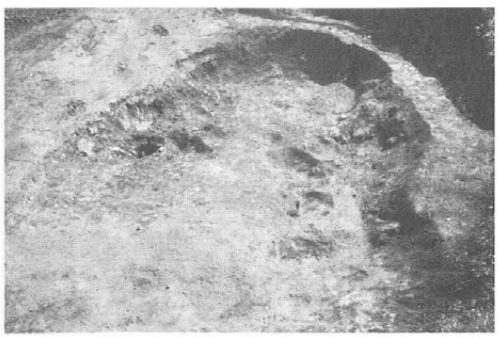
Ｈ２号住居址（西より）

Ｈ３号住居址（北より）



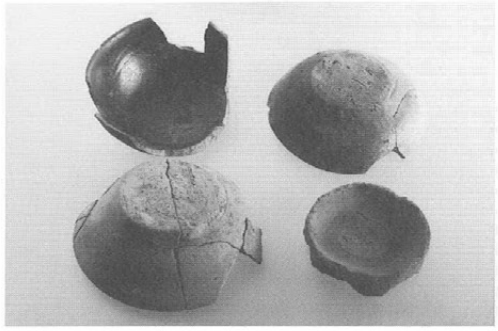
Ｈ２号住居址竈

Ｈ３号住居址竈

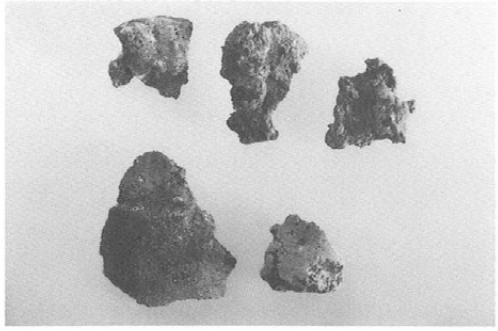


竪穴状遺構（西より）

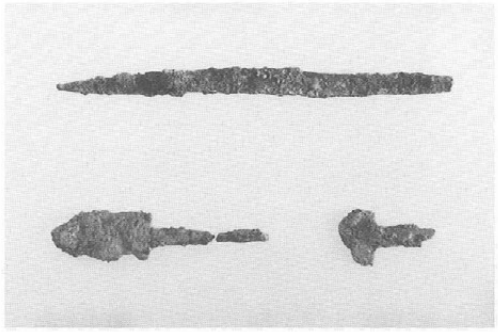
陥し穴（北東より）



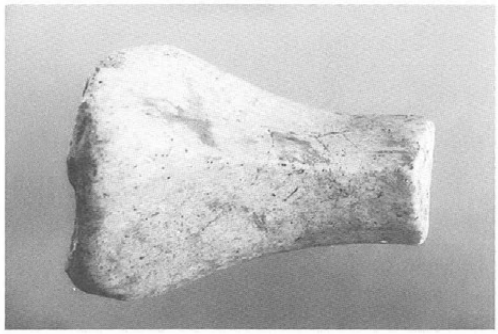
Ｈ１号住居址土師器埦



Ｈ１号住居址鉄滓、羽口ほか



Ｈ２号住居址鉄製品



Ｈ２号住居址砥石

平成12年度試掘調査状況（東より）

報告書抄録

ふりがな	やまざわしたいせき
書　　名	山沢下遺跡
副書名	セイコーエプソン株式会社第三駐車場建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小松隆史
編集機関	富士見町教育委員会
所在地	〒399-0214　長野県諏訪郡富士見町10039-4　　TEL 0266-62-2400
発行年月日	西暦　2002年3月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m²	調査原因
山沢下（やまざわしたい）	長野県（ながのけん） 諏訪郡（すわぐん） 富士見町（ふじみまち）	203629	9	35度 55分 57秒	138度 13分 14秒	20010625 ～ 20010702	2,614	駐車場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山沢下	集落	平安時代	竪穴住居址3軒 竪穴状遺構 陥し穴 土手・溝状遺構	土師器・鉄製品	

山沢下遺跡

—セイコーエプソン株式会社
諏訪南事業所第三駐車場建設に
係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

2002年3月20日

発行　富士見町教育委員会

印刷　もえぎ企画書籍
岡谷市御倉町2－21
TEL　0266—22—4892